

令和6年度木津川市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和6年6月26日 (水)
午後 1時30分 開会
午後 2時19分 閉会
2. 場 所 木津川市役所4階会議室 4-3 4-4
3. 出席者 木津川市長 谷口 雄一
木津川市教育委員会
教育長 竹本 充代
教育委員 有賀 やよい
教育委員 小松 信夫
教育委員 佐脇 貞憲
教育委員 皆川 麻紀
事務局
政策監 船岡 悠太
企画戦略部
企画戦略部長 茅早 祥一
学研企画課長 西村 和将
学研企画課 細谷 麻帆
教育部
教育部長 平井 浩美
教育部理事 八田 達男
教育部理事 大村 和広
教育部理事 山口 正敏
教育部次長 福井 俊英
学校教育課長 東村 泰嘉
社会教育課長 中島 雄介
教育総務課教育総務係長 斎藤 聰美
教育総務課 織田 雪菜

4. 会議の要旨

- 1 開会
 - (1) 市長あいさつ
 - (2) 教育長あいさつ

- 2 意見交換

「教育大綱の策定について」

茅早企画戦略部長が資料に基づき、教育大綱案について説明した。

【説明】

基本理念を「ふるさと木津川市に愛着を持ち、未来につなげる『ひとつづくり』」とし、その実現のための基本方針を5項目で述べている。

それぞれの項目ごとに内容の概略を説明。

【意見交換】

谷口市長：大綱案は、まず理念あってのもの。教育が重要なのは当たり前のこと、こどもには無条件で、健やかに育ち、将来も幸福でいてほしいという強い思いがある。縁あって木津川市に来られた、またはここで生を受けた方には本市に愛着を持ってもらいたい。こどもの健やかな成長は家庭や地域の大人の責任であると思う。この大綱案は、1行余りの理念を具現化するための考え方や方向性を5つの項目ごとに文章化したもの。言葉の使い方やそれぞれの分量なども含めて忌憚のない意見をいただきたい。

竹本教育長：教育委員会では、昨年度、第2次教育振興基本計画、第2次生涯学習推進計画、文化財保存活用地域計画を策定または認定を受けた。それぞれの計画に基づき、これまでの教育行政を継承し、新たな課題に向けた教育を進めている。こども一人一人の可能性を引き出し、地域とのつながりの中で生きる力を育成すること、すべての市民が生き生きとした人生を送ることができる地域社会の創造、まちを大切に思う心、未来へつなげていくことも盛り込まれている。教育委員会の目指す方向と同じ考え方であると思う。各委員からの意見をお願いしたい。

有賀委員：教育を考えるうえで大切なことが書かれていると思う。教育委員としてこどもや学校について考えるときの基礎になると思う。

その中で、表現の仕方で気づいた点について。【はじめに】は1段落が1つの文章で説明されていて、どの言葉にかかるのかわかりにくいと思う。

1段落目、「(略) 市制発足以来、関西文化学術研究都市の建設等に伴う(略)」とあるが、学研都市の建設が市制施行より先で人口もその頃から増加してきた。

2段落目、「(略) 三世代以上が同居する家庭が減り、(略)」とある。「核家族の増加=構成人員の減」により「人間関係の希薄化」が進んできたと思う。こどもの安全、子育て支援、子育ての難しさや教育にお金がかかることなど、たくさんのかどもを育てることが難しいという意識につながっていると思う。それを超えるような教育の充実は実現できていないが、課題としての意識はあった。特にいじめ問題については、市制施行後、主な取組みのひとつである。こどもたちへのアンケートで「嫌な思いをした」ことも件数として取り上げているので、府内でも件数が多くなっているが、小さ

な思いがいじめにつながることもあるため、学校で面談や指導など継続して取り組んでいる結果、件数は減少傾向にある。しかし、ここでは人口増加したことがいじめや不登校に直結しているように読めるので、細かく表現してもらいたい。不登校については、新型コロナウィルスが流行した時期には、登校を推奨していなかったため目立たなかつたが、コロナ禍収束後、急増している。こどもたちにとって話しながら給食を食べることや、直接近くにいる相手とコミュニケーションを取ることが許されなかつた状況下では目立たなかつたが、コロナ禍収束後、アクティブに積極的な学習が増えてくると、その中に入り切れないこどもが学校に行きにくくなり、不登校になることも増加の要因としてある。そういう社会情勢やこどもを取り巻く環境が子育てにおける問題に直結するというように読めるので、それは違うと思う。

谷口市長：意見を参考に見直したいと思う。いじめの実態や地域性、本市の特性についても入れていきたいと思う。

佐脇委員：【3. ふるさと教育の醸成と推進】について。人口急増でいろいろな地域から木津川市に移り住まわれた方や、こどもたちの地域に対する認識が十分ではないと思う。学校教育の時間の中で郷土教育も進めてもらいたい。またこどもたちだけではなく、新住民の方の中にも、学研都市の技術や全国有数の文化財など近くにあっても気づかれていないことがあると思う。社会教育も含めて取り組んでもらいたい。

谷口市長：京都府知事の「こどもに住みよい社会は誰にとっても住みよい社会になる」という言葉があり、そこに注力することで、あらゆる世代の方や新しく住まわれた方にも住みよいまちになるだろうと、前提として自分自身も考えている。木津川市内には最先端の技術と、京都市に次ぐ数の国宝など文化財が存在している。思いはあっても実現していないこともあり、意見を参考に盛り込んでいきたい。

小松委員：重要な部分は網羅されていると思う。【1. 学校教育・家庭教育の充実、教育環境の整備】で確かな学力についても述べられている。自ら学び、自ら考えることが基礎学力であると考えている。内容はこれでも十分かもしれないが、わかりにくい点もある。私は市の課題の一つに合併して10年以上が経過するが、各地域の調和のとれた発展が必要であると考えており、地域社会について述べていることは大切なことであると思う。地域の振興がなければ生きてこない。具体的な策や実現するための指針など、詳細について考えていくことになるだろうと思う。

谷口市長：「『確かな学力』の育成」とは、学力があれば将来の選択肢も広がると考えたもので、具体的な表現を考えたい。地域の活性化の視点も必要であり、具体的な策に市の総合計画や教育大綱など関連付

けられると思う。

皆川委員：大事なことが網羅されていると思う。市自体の人口が急増し、木津川市が地元の方はもちろん市外から転入してきた方の中には、「引っ越ししてきたからには生涯ここで暮らそう」という思いの方もいる。
佐脇委員の発言にあったように、こどもや地元の方だけでなく、新たな住民の親世代に対するふるさと教育についても述べられていると良いと私も思う。こども世代だけではなく、【4. すべての世代に教育機会を創出】【5. 生きがいの持てる社会の実現】で子育て世代、高齢者世代などすべての世代について述べられていて良いと思う。市長の思いが込められていると感じた。

谷口市長：都が木津川市内にあった頃から歴史の最新を生きている。生涯本市に住む方もいる。生きがい、誇りを持って生きられたら良いと思っている。概念的な文章になっているので、構成から見直ししたいと考えている。

有賀委員：ふるさと教育は良いと思う。自分自身がニュータウンに転入してきたときには、そういった機会がなかったことが残念。

【1. 学校教育・家庭教育の充実、教育環境の整備】の3段落目には、市長の願いが込められていると思う。日本の学校の先生は、世界の中でも厳しい労働環境に置かれている。教員志望者が減少していたり、休暇保障のための代替職員が見つからず苦労しているとも聞くが、具体的に解決することは全国的にも難しい。先生自身も豊かな人間性や広い社会性を持ちたい、学びたいという気持ちはあるが、教材研究もままならず書類作成に時間を費やしているとも聞いているので、順番を変えて「高い専門性に加えて、豊かな人間性（略）」の方が良いと考える。特に小中学校の先生は、いかにこどもを愛し、向き合って、心の中で何が起こっているのか洞察する力が大切であり、それは「人間性」という言葉で表現できている。保護者は切実にその力を望んでいる。いじめなどに対する先生の気づきなど、教育が支えられている人間性の部分について、市長からの言葉があれば、先生方も報われるのではないかと思う。

谷口市長：教員に求める資質のような書きぶりになっているが、私自身の思いとは少し異なる。先生とは資質を持っている職であり、敬意を払うべき職であると考えている。現在は先生が身近になりすぎて、表現としては良くないが保護者と先生が馴れ合っているところがある。本来、先生は厳しく、保護者が「先生の言うことを聞きなさい。」とこどもに教えるような職であると思っている。働き方改革と相反するところもあるので、表現を見直したいと思う。

佐脇委員：豊かな人間性や広い社会性、高い専門性、指導力を持っている先生がその力を発揮する場を作ることが行政の立場だと思う。そういう

った教育環境を整えてもらいたい。

谷口市長：先生の働き方については、児童生徒、保護者、地域の理解も必要。

先生としての役割に全力であたれる環境づくりについて表現の整理をしていきたい。

竹本教育長：こども達には強く生きる力を身に付けてもらいたい。失敗やけがをしても、社会に出て生きていける力をつけてほしい。それがまちの活気、まちづくりにつながっていく。

【はじめに】1段落目に「子育て世代が増加し」とあるが、今後は減少期に入る。避けて通れない。社会全体のデジタル化、グローバル化、変容、人間関係の希薄化など様々な要因が合わさって生きづらい環境ができていると思う。社会の課題の中でこどもたちを育てていくという表現にしてはどうか。

谷口市長：大人自身も尊厳を持って生きていくことが必要。将来は今以上に格差のある社会になることが予想される。今は人間がしている仕事もロボットがするようになるかもしれない。人間には充実したそれぞれの生き方があると思う。その中でも自分だけ良ければいいというのではいけない。周りを見ることも大切である。そういったことも盛り込めれば良いと思う。

本日いただいた貴重な意見を尊重し、修正して次回、再度提案したいと考えている。修正案に対しても意見をいただき、柔軟に対応していきたい。

3 閉 会